

新報

島根県教育庁
隠岐教育事務所
隠岐県島根市松江
電話 2-9772

西ノ島町の取組紹介

小中一貫校から 義務教育学校へ

西ノ島町では、平成23年に三つの小学校が統合し、平成28年には、中学校校舎の建て替えと新校舎への移転を機に、小学校と中学校が同居する形がスタートしました。さらに、令和3年には、施設一体型の環境を生かし、小中九年間を見通した教育を推進するため、「西ノ島小中学校」として施設一体型の小中一貫校を開校しました。小中合同での入学式や運動会、縦割り班掃除、小中双方乗り入れ授業など、学校では九年間の連続性・系統性・一貫性を重視した教育活動が展開され、小中一貫の風土が浸透してきています。先生方が試行錯誤しながら取り組まれてきた小中一貫教育の成果を改めて実感するとともに、日々のご尽力に敬意を表します。

そして現在、これまでの成果を土台としてさらに発展させ、子供たちの可能性を最大限に引き出す教育の実現を目指し、義務教育学校という次のステップへ移行する準備を始めています。

既に施設一体型であり、施設や設備などハード面の整備の必要はありません。その分、教育課程や特色ある教育活動など、小中の区切りをなくし、「一つの学校」としてどのように変革していくのかといったソフト面にしっかりと注力できる点は、移行を検討する上で大きな強みであると考えています。月に一回のペースで移行検討委員会を開き、先生方と教育委員会が協働で検討を進めています。

た。特に、八束学園の四年生をリーダーに据えた実践例からは、ブロック制を導入することで得られるメリットを感じ、検討する上でのヒントとなりました。また、学校と教育委員会の担当者が一緒に視察できたことも、互いの目線を合わせ、連携体制を強化する上で大きな意義があったと感じています。

西ノ島町では、環境や時代の変化と共に、学校の形もモデルチェンジを繰り返してきました。そして、再び次のステップへ踏み出そうとしています。しかしながら、子供たちにとっての学びのフィールドが「ふるさと西ノ島」とあるということは、これからも変わりません。このことを中核に据え、豊かな自然と文化に育まれたこの島で、次世代を担う子供たちが多様な価値観を持つ社会で活躍するための確かな土台を築くことを目指します。

(中山小夜)

みんなで楽しく成長する 西ノ島町営塾

西ノ島町では、町内に民間の学習塾がないという状況を受け、子供の学びの機会を

保障するために、「西ノ島町営塾」を運営しています。対象は中学生で希望制ですが、西ノ島中学校の生徒の約半数が入塾しています。

学校とも連携し、場所の提供だけでなく、情報共有も行っています。塾での学びが学校生活に良い影響を与える。「塾で自信がついたことで、学校の授業がより楽しくなった」という循環を目指しています。

町営塾の目的は、「仲間と共に学び合う力を付け、未来の可能性・選択肢を広げ、将来、ふるさと西ノ島で育つことを誇れる塾生を育成すること」です。そのため、学力向上だけではなく、塾生同士やスタッフとの繋がりが大事にしています。指導スタッフは、隠岐国学習センター、大人の島留学・体験生、地域の方々もが携わり、塾生は多様な大人のモデルと関わり合いながら学んでいます。

今年度、町営塾には新たに西ノ島出身のスタッフが加わりました。彼女は中学生の時、町営塾に通っていたそうです。かつて自分が学んだ場所、今度は後輩たちの学びを支える立場となり、その姿は、塾の理念そのものを体現しているように感じます。

令和7年度からは、塾生とスタッフが共に考えたスローガン「みんなで楽しく成長する塾」を掲げ、指針としています。塾生たちのアイディアから、学期ごとに「思考力とチームワークが試されるお楽しみ会」を企画し、町営塾がみんなで楽しく学ぶ場であることを再確認する機会ともなっています。

ただ、楽しく学ぶだけではなく、塾である以上、高校入試という「結果」を試される場面はやってきます。昨年度は、三年生の塾生全員が希望の高校への合格が決まり、塾生・スタッフみんなで喜び合いました。

これからも、地域・学校・家庭と連携しながら、西ノ島の子供たちの成長を支援していきます。そして、塾生たちがいつか「中学生の時に町営塾に行っておいて良かった。」と思ってもらえるような場にしていきたいと思っています。

(氣賀澤誠)

人を動かし、育て、 実らせるために

今年度の管理職研修で学校法人湘南学園長 住田昌治

先生の講義がありました。内容は学校マネジメントについてでしたが、教員として子供たちをどう導いていくかのヒントも多くありました。「やってみせ、言ってみせ、ほめてやらねば、人は動かじ」これは山本五十六氏の有名な言葉ですが、実はその後に第二、第三段階があり、全てをセットにしないと人材育成には繋がらないとお話されました。第二段階「話し合い、耳を傾け承認し、任せてやらねば、人は育たず」。第三段階「やっている姿を感謝で見守って、信頼せねば、人は実らず」。学校訪問で、ある校長先生が「先生方はとても頑張っている。しかし、子供に手をかけすぎている」とお話されました。住田先生は「教えたいたい気持ちと戦うことが大切」と言われていましたが、この校長先生の思いと同じように感じました。

(新谷慎太郎)

